

学校における情報モラルに関する指導の充実をめざして（1年次）

－授業力を高める情報モラル校内研修モデルの構築－

高橋 雅（京都市総合教育センター研究課 研究員）

これからの社会は、情報化の進展やグローバル化によって、ますます変化していくと考えられており、子どもたちには、その予測しがたい未来においても活躍できるよう、様々な情報を主体的に活用し、問題を解決したり、新たな価値を創造したりする能力が求められている。同時に、人と人とが互いにネットワーク社会の中で生きていくために、情報モラルを身につけることが必須となっている。しかし、小学校現場では、計画性をもった実践とまでは至っていない状況もあり、教員の情報モラルの授業への十分な理解が必要であると考えられる。今年度は、子どもたちの実態把握から分析したことをいかした授業作りまでを校内研修として、授業実践へとつなげることを視点として研究をすすめた。

第1章 子どもたちの「情報モラル」を高めるために

第1節 情報モラルの必要性

急速な情報化が進む社会の中では、人がよりよく生きていくための情報モラルが欠かせない。これは、子どもたちにとっても同様であり、文部科学省「教育の情報化に関する手引」検討案（平成21年1月）でも、図1のように、日常モラルの指導と、情報化社会の特性についての理解を合わせて行うことで、情報モラルを育てている。

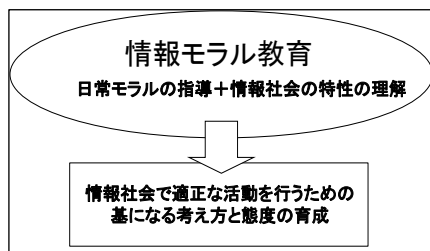


図1 情報モラル教育の内容

第2節 情報モラルに関する現状と情報モラル教育

子どもたちには、様々なインターネットサービスを利用している現状から、ネット依存の問題やネットトラブルの問題等が起きており、それらは、校種が上がるに従って増加する傾向がみられる。

また、本市の学校非公式サイト等を監視する調査からも、問題となる投稿件数が中学校では大きく増加することがわかった。中学生になってから情報モラルを身につけるのでは遅く、小学生の間に学んでおかなければならない状況が差し迫っていると考える。

情報モラル教育は、危険回避の技能を教えることだけではなく、教科・領域を通して子どもたちが情報モラルを身につけ、考えを深められる、よりよい人間関係の構築をめざしたものでなければならない。

第2章 情報モラル教育を充実させるための効果的な校内研修の考案

第1節 本研究について

研究協力校の教員を対象に行った調査結果からは、情報モラルの指導が必要であるという意識が非常に高いことがわかった。しかし、授業についてはあまり得意でないと感じていること、授業の参考にできるものが欲しいと感じていることがわかった。これは、変化の激しい社会にあって、それにふさわしい教材を活用した授業の難しさを表しているのではないだろうか。

平成27年12月21日中央教育審議会答申では、教師自身が社会の変化をつかみ取りその時々に応じた適切な学びを提供していくことと、主体的で協働的な研修を進めていくことが、課題として示された。

こうしたことを踏まえて、情報モラルに関する指導の充実をめざして、図2に示す校内研修会の時間を使って、情報モラル教育の教材研究を効果的に行い、授業に結びつける効果的な実践について研究を行った。

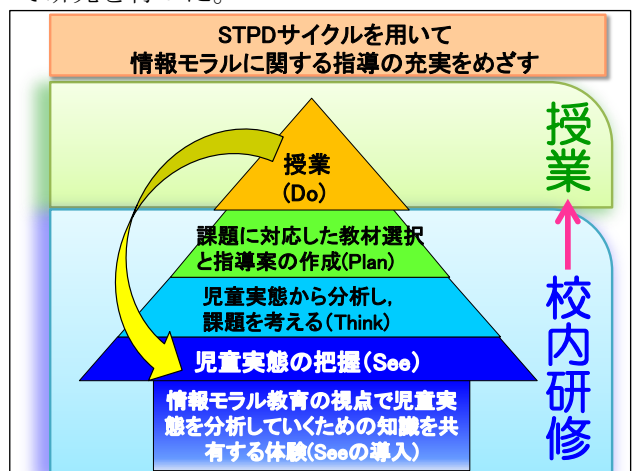


図2 STPDサイクルを用いた情報モラルに関する指導の充実

第3章 情報モラル校内研修と授業の実践

第1節 情報モラル校内研修会から授業へつなぐSTPDサイクルの実施

情報モラル校内研修会から授業へつなぐ実践の全体像を図3に示す。

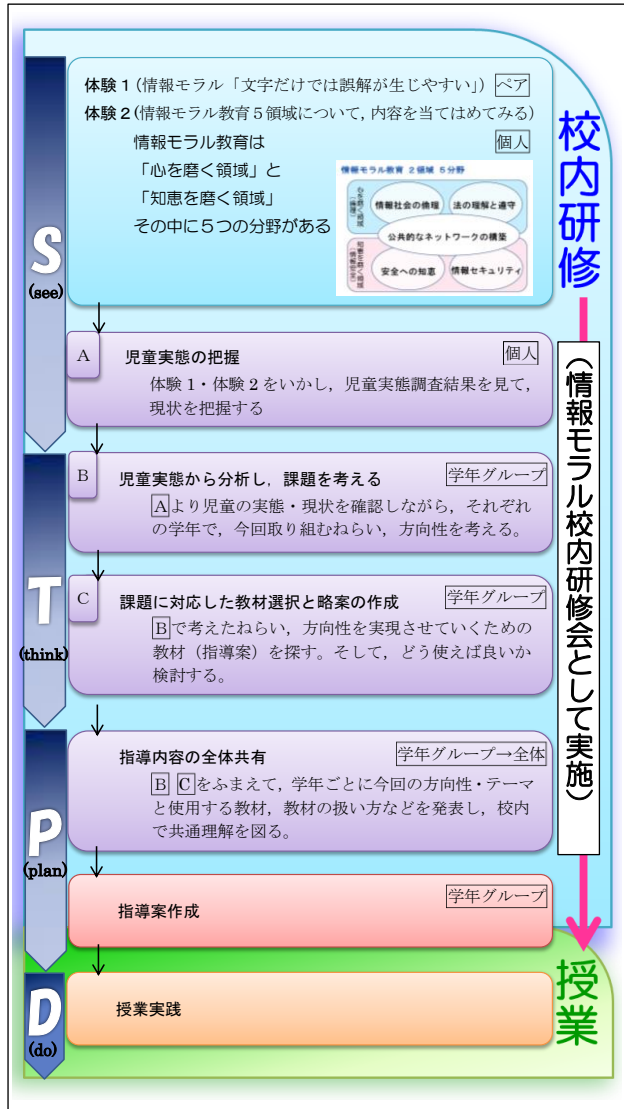


図3 情報モラル校内研修会から授業へつなぐ全体像

STPDサイクルを活用して、情報モラル校内研修会という形でSTPまでの部分を一回で実施した。そして、Dとして授業につなげた。情報モラル校内研修会のSの部分では、情報モラル教育の全体像を把握し、二つの体験により、情報モラル教育の視点を理解したうえで、児童の事前調査を基に、実態を把握する。Tでは、調査結果から児童の課題と考えられることを抽出し、それらを学年で持ち寄り、分析する。Pでは、その課題を解決するために、どのように授業を展開していけば良いのかを考える。参考教材から、適切なものを学年で探し出し、課題に対応した指導案の作成までを、主体的で協働的な活動となるように設定した。

第2節 A校における実践

6年生の先生方の校内研修会での様子と授業の実践について述べる。研修会では、子どもたちの実態調査結果の分析から、自他の個人情報の扱いに課題があると考え、「自他の個人情報を第三者に漏らさない」をねらいとした授業を考えることにつながった。

授業では、動画教材を活用する工夫や、グループ交流、ワークシートの活用を取入れ、活発に子どもの発言やつぶやきを引き出した学習となっていた。また、子どもたちのワークシートからは、授業中と授業の終りとは、考えた項目に、かなり広がりが出ることで、子どもにとっても必要な学習だと感じていることがわかった。

第3節 B校における実践

教材は対象学年以上のものを選ぶ傾向が強かったことと、指導内容が情報モラル教育の2領域5分野に広がっていったことが、特徴としてあった。

とりわけ、1年生では、選択した教材が対象学年以上のものであったが、動画を細かくとめながら進め、学習で大事にしたいことを見やすくした板書や、動画教材の印象的な場面ばかりに考えが傾倒しないように、ワークシートに大事なことをおさえるための工夫がされていた。こうした工夫で、対象学年以上の教材を授業で活用することも十分に可能であることがわかった。

4年生では、「情報社会の倫理」の分野を扱うのに際して、身の回りの©マークを探す活動を取り入れたり、さらに、先生方が勉強され、既存の教材以外の資料から著作権クイズを作成されたりするなど、子どもたちにとって理解しやすい授業展開の工夫がされた。

第4章 実践研究の成果と今後の課題

研修後のアンケートで、全員の先生方にこの研修スタイルは繰り返し使えろと評価していただいた。また、「大変活動的な研修で自ら考えるという点で、ためになった。何よりも学校全体で取り組んでいこうとする意識が高まった。」という意見からも、校内研修会が、情報モラル教育充実のための機会になったと考えられる。今後、更に、情報モラル教育を充実させるためには、変化の激しい情報化社会の様子を敏感に感じ取りながら、先生方が自信をもって授業を続けられるような学校全体で取り組む環境作りが重要であると考えている。